

さいごうりゆうたろう

僕は西郷竜太郎といいます。歳は二十四歳です。今は居酒屋でバイトをしながら、家賃五万円のアパートで一人暮らしをしています。

名前だけは勇ましいのですが、小さい頃から体が細くて、すごく華奢でした。そのせいで小学校、中学校とクラスでもからかわれていました。あだ名は「もやし」でした。最初は「もやしっ子」と呼ばれて、それがだんだん省略されてきて、もやしになったのです。女子からも男子からも「もやし」と呼ばれ、女子とケンカをしても負ける始末でした。

中一の時、女子五、六人に囲まれて女みたいと言われ、無理やり

スカートを穿かされたこともありました。そうです。僕はいつもクラスのオモチャにされていたのです。身長も低くて、細くて、オモチャにするにはちょうど良かったのだと思います。

完全に名前負けしていました。勉強もできず、そんな風なので当然彼女もできません。彼女いない歴二十四年の童貞です。

僕には二十歳の妹がいます。妹は小百合といって僕とはまったく違います。小さい頃から可愛くて、そこそこ勉強もでき、中学、高校とクラスの人気者でした。妹を狙っている男子はたくさんいました。僕も日に日に可愛くなっていく妹に密かに憧れていました。でも一応兄妹なので、そういうことはできません。

中三ぐらいになると妹は僕に対して口うるさくなってきました。「頼りない」とか「しっかりして」とか、口癖のように言ってきたのです。僕は言い返すこともできず、情けない思いをしていました。

最初は愛情の裏返しかと思っていたら、その言い方が罵倒に近くなってきたのです。それがものすごくストレスになってきました。

それは妹だけではなかったのです。両親からもちよくちよく言われていることでした。それが嫌で僕は高校を卒業してから家を出て、一人でアパートに移り住んだのです。小百合は現在、保育

士を目指して短大に通っています。

そんなわけで、今の居酒屋でも僕は頼りなくて、みんなから「ヒヨロ君」って呼ばれてます。体が細くてひよろひよろだからです。このあだ名を付けたのはアルバイトリーダーの小林直美さんでした。直美さんは三十歳で、とても頼れる先輩なのです。みんなの面倒見も良く、慕われていて、みんな直美さんには従順で、いろんな指示とか頼み事とかをされても嫌がる人はいません。僕も何かと言うと直美さんを頼ってしまいます。